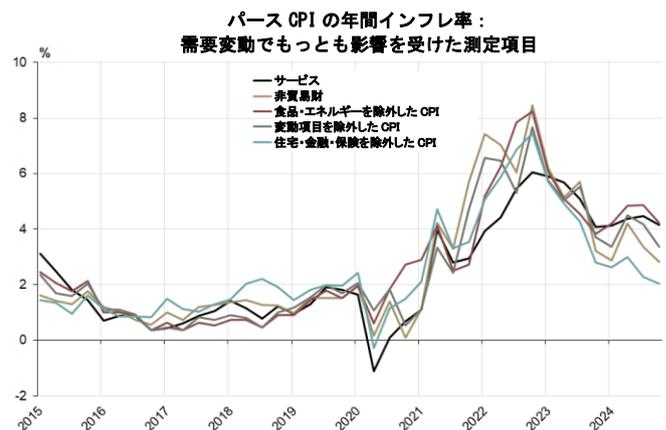
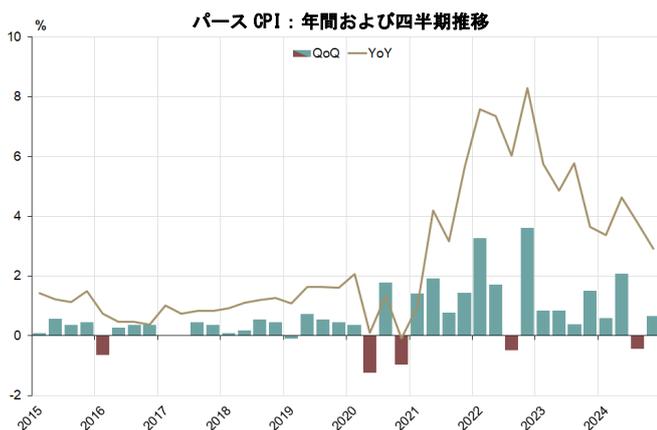


## 西オーストラリア州関連データハイライト

- パース CPI は第 4 四半期に 0.7% 上昇し、通年で 2.9% 増となった。
- 西オーストラリア州の雇用者数は 12 月に 9,700 人増加した一方、失業率は 3.3% を維持した。
- 西オーストラリア州の小売業は 12 月に 0.2% 上昇し、年間成長率は 6.3% となった。
- CoreLogic によれば、パースの住宅価格は 1 月に 0.4% 上昇し、通年で 17.1% 上昇した。

## 2024 年第 4 四半期のパース CPI

- パース CPI は 2024 年第 4 四半期に 0.7% 上昇したが、年間消費者物価インフレ率は 0.9 ポイント低下して 2021 年第 1 四半期以降最低水準の 2.9% となった。
- 同四半期のパース CPI 上昇に単独で最も大きく寄与したのが 49.5% 上昇した電気代で、これは西オーストラリア州政府による家庭向け電力料金補助の初回分を概ね利用し終えたことで、家庭の自己負担費用が上昇したことによる。
- その他の主な寄与要因としては国内休日旅行・宿泊(+4.4%)、タバコ(+6.1%)、家賃(+1.3%)、持ち家所有者による新規住宅購入(+0.6%)があり、これらを部分的に相殺したのが自動車燃料(-3.8%)、保育(-5.2%)、家庭用繊維製品(-5.7%)、果物(-2.9%) 価格の低下であった。
- 同四半期の上昇にもかかわらず、家庭の電気代は前年よりも 22.9% 低下したままであった。自動車燃料価格は前年同期比 9.4% 減と急減している。だが、パース CPI インフレ率の緩和に最も大きく貢献したのが新規住宅購入費用年間インフレ率の鈍化で、前年同期比で第 3 四半期の 19.1% から 13.6% に低下している。年間インフレ率は大半のカテゴリで鈍化したが、もっとも顕著な例外が食品価格の年間インフレ率であったほか、家賃の年間インフレ率は 0.1 ポイント上昇して 10.1% となった。
- 財価格のインフレ率は 1.2 ポイント低下して前年同期比 2.0% となった一方、サービス価格の年間インフレ率は 0.3 ポイント低下しながら 4.1% という高水準を維持した。年間コアインフレ(食品・エネルギーを除外)率は 0.6 ポイント低下して 4.2% となった。
- 変動項目や金利感応型項目を除外するとインフレ緩和の状況は明白となる。変動項目を除外したコアインフレ率は 3.4% と 3 年半ぶりの低水準を記録した一方、住宅・金融・保険費用を除外したインフレ率は過去 4 年間で最低の 2.0% に低下した。



オーストラリア金利(%)			為替と株価		
RBA 政策金利目標	4.35	(0 pt)	AUD/USD	0.6218	(↑0.5%)
90日銀行手形	4.25	(↓17 pt)	AUD/JPY	96.40	(↓0.9%)
連邦政府3年国債	3.82	(0 pt)			
連邦政府10年国債	4.43	(↑7 pt)	ASX200	8532	(↑373 pt)

## 市場概況

- RBAによる2月の政策金利引下げに対する期待は高まっており、2024年12月31日時点で70%だった25ベースポイント引下げの可能性も2025年1月31日時点では93%へ上昇している。
- 予想を上回る米国の雇用統計によって世界の国債利回りが上昇したことを受け、1月中旬のオーストラリア国債利回りは2カ月ぶりの高水準となった。だが、12月の米国コアインフレ率低下の報道を受けてオーストラリア国債利回りは低下し、さらにオーストラリアのインフレ緩和によりRBAによる2月の政策金利引下げへの道が開けたことを受けて再び低下した。オーストラリア長期国債利回りは1月最終日に小幅上昇し、10年物国債利回りは月初をわずかに上回って1月を終えた。
- 2025年のオーストラリア株式市場は世界の株式市場と同様に好スタートを切ったが、その背景にはトランプ米大統領の一部政策が米国経済にもたらす刺激作用に関する楽観主義と、オーストラリアにおける金融緩和の期待があった。ASX200は1月に4.6%上昇し、過去最高を記録して当月を終えた。
- 1月後半、世界の株式市場における楽観主義と相まって米ドルは下落し、豪ドルは米ドルに対して0.5%上昇した。だが、日本の金融引締政策を受けて日本円に対しては0.9%下落した。

WATC 指標銘柄債券の利回り				
満期	利回り		AGS スプレッド	
	2025年1月31日		2025年1月31日	
2026年10月21日	3.91	(↓4 pt)	+7 pt	(↑2 pt)
2027年10月21日	3.96	(↓2 pt)	+16 pt	(↑3 pt)
2028年7月20日	4.04	(↓4 pt)	+20 pt	(↓4 pt)
2029年7月24日	4.19	(0 pt)	+29 pt	(↓2 pt)
2030年10月22日	4.36	(↑1 pt)	+31 pt	(↓1 pt)
2031年10月22日	4.56	(↑3 pt)	+38 pt	(↑1 pt)
2032年7月21日	4.67	(↑4 pt)	+42 pt	(↑1 pt)
2033年7月20日*	4.80	(↑6 pt)	+47 pt	(↑2 pt)
2034年10月24日	5.02	(↑9 pt)	+63 pt	(↑4 pt)
2041年7月23日	5.35	(↑12 pt)	+63 pt	(↑5 pt)

